

同窓会だより

題字は故後藤淳・名古屋電気学園学園長・総長

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会
〒464-8540 名古屋市千種区若水3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

先進の気概を未来ある世代へ



永井広明会長
(昭和51年卒業)

今年も新緑が鮮やかに輝く季節になってまいりました。会員の皆様には日頃の同窓会活動にご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。昨年は能登半島で度重なる災害が発生し、被災者の方々を思うと心が痛みます。新型コロナウイルスや世界の紛争、諸物価の高騰など、生活の苦しさが増しているように思われます。明るい事象に目を向けましょうか。

昨年のパリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会では、篠塚君、今井君、同窓生の活躍を喜ばしく思います。また、イチローさんが母校野球部を指導に来校されました。データ偏重の流れに危機感を持ち、データに振り回される事なく、感性を大事にして考えて動く事を指導されておりました。実社会でもデータ検証は大事ですが、世の中は常に動いており、行動しながら考える事は大切だと感じました。

さて、今年度も現役生たちは先輩方に負けない活躍をしております。卓球部のインターハイ学校対抗8連覇を筆頭に、囲碁で全国を制した羽根君、数々の部活動が全国大会に駒を進めました。また、卓球やフェンシングの選手たち、2年連続世界大会に出場のメカニカルアーツ部など世界にも活躍の場を広げています。

同窓会では全国大会出場クラブの激励表彰や優勝のお祝いを行っておりますが、昨年より現役生の世界大会出場者の支援に、奨学金の給付、また「ザ・名電ショー」への協賛も開始しました。同窓会のイベントは形を変えながら今後も続けていきたいと思っております。諸先生、先輩方が築いてこられた輝かしい伝統と尊い絆を後輩たちへと繋いでまいります。

「誠実・勤勉」のもとでの生徒育成



後藤泰之理事長
(同窓会名誉会長)

名古屋電気学園は、令和6年で学園創立112周年を迎えました。これもひとえに同窓生の皆様のご理解とご協力によるものとお心から感謝申し上げます。

名古屋高等学校では、生徒の学ぶ意欲と主体性を育むべく、「先端科学技術入門講座」「Meiden LaboinAIT」「課題研究」等の高大連携の取り組みや「Meiden Quest」「キャリア・サロン」など、特色ある教育を積極的に取り入れております。そして卒業後には多くの生徒が愛知工業大学をはじめ、国公立大学、難関私立大学などへ進学をしております。

一方部活動では、卓球部のインターハイ8連覇、サッカー部、フェンシング部、ボウリング部、ウエイトリフティング部、チアリーディング部、ダンス部、吹奏楽部の全国大会出場、メカニカルアーツ部の世界大会出場など、今年度も多くの部活動が輝かしい活躍を見せてきています。

こうした文武両道の姿こそが、創立以来求めてきた「名電らしさ」ではないかと考えております。本校は、校訓「誠実・勤勉」のもと一貫して生徒の人間的な成長を大切にされた教育に取り組んできましたが、その中で生徒一人ひとりが、誠実・勤勉であることの大切さを理解し、努力を重ねてきた結果が、今日の「名電らしさ」を実現しているのだと思います。

少子化、社会の多様化など、学校を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、今後も本校は「誠実・勤勉」のもと、社会から必要とされる学校であり続けるよう生徒の育成に努めてまいります。同窓生の皆様にも、引き続き本校に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

『同窓会だより』ペーパーレス化ご協力のご案内

URL <https://meiden-alumni.jp>

この度、環境への配慮や、郵送費の値上がり等から、従来郵送しておりました「同窓会だより」を段階的にペーパーレス化することといたしました。なお、「同窓会だより」は、公式ホームページより、ダウンロードが可能となっております。将来的には「同窓会だより」発行は、メール送信でご案内させていただく予定です。公式ホームページからの、メールアドレス登録に、ご協力の程お願い申し上げます。

詳しくはこちら▶▶▶



祝・パリ2024オリンピック競技大会出場



インタビューに応じる篠塚選手

インタビュー
篠塚 大登さん
(令和4年普通科卒業)

攻めの姿勢で代表入りへ

広報委員会(以下、広報)・・・

パリ大会お疲れ様でした。篠塚選手(以下、篠塚)・・・ありがとうございます。

広報・・・ここ数年の活躍により代表決定、飛躍のきっかけは何でしょうか。

篠塚・・・高校3年の時に、日本選手権の初戦で負けてしまったことです。自分はプロ選手としても活動していたのに、まさかの敗退。その出来事が自分のプレースタイルを考え直す分岐点になりました。

広報・・・どのような取り組みをされたのですか。

篠塚・・・ちょうどその時に、木下グループさんの倉嶋監督から声をかけていただきました。考えた末に『T・

彩たま』を退団し、『木下マイスター東京』に移籍することにしました。広報・・・思い切った環境を変えたんですね。



(Photo by Buda Mendes/Getty Images)

団体準決勝スウェーデンチームと対戦の篠塚選手

篠塚・・・はい。当時の倉嶋監督が熱心に指導してくださって、今までの競技人生を過ごしました。その経験があつて、プレースタイルが変わってきました。攻撃的なプレーを目指すように自分自身が成長したと思います。

広報・・・その成果が出て、団体メンバー3枠目の選手として代表に選ばれましたね。

篠塚・・・選考ポイントの獲得には、ラッキーもあつたと思います(笑)。

オリンピックを経験して

広報・・・初めてのオリンピックはいかがでしたか。

篠塚・・・結果はメダルに届かなかったので悔しい気持ちですが、自分としては楽しめた大会だつたと思います。ずっと興奮状態でした。

広報・・・フランスでは慣れないことや、戸惑いは無かつたですか。

篠塚・・・あまりなかつたですね。いつも海外では食事でポイントがしっかりしていて、日本食が食べられたことが大きかったですね。

広報・・・フランスチームとの接戦だつた3位決定戦について少し聞かせてください。TVで見ているとフランスを応援する声がとても大きかったですね。

篠塚・・・はい。試合中は集中しているのですが、そこまで気が散るといふことは無かつたのですが、ただ、相手チームは声援を力に変えて、どんどん打ち込んできました。最後は、力負けしてしまい、残念な結果となりました。技術の差という

オリンピックを経験して

篠塚・・・世界のトップ選手たちと渡り合えるように、もっと強くなりたいです。今は世界35位くらいですが、次のロス大会に向けてリベンジができるように、20位以内を目指したいと思っています。

広報・・・今後の活躍にますます期待が高まります。

篠塚・・・2024年からは沖縄のクラブチーム『琉球アステイダ』に移籍しました。フィジカルもメンタルも鍛えながら、日本代表を争うライバルたちの中で、プロ卓球選手として自分

より、気持ちの差が出たように思います。

広報・・・あの試合は大接戦でしたね。今後の目標を教えてください。

篠塚・・・あの大変お世話になっています。これからも応援をよろしく願いました。

広報・・・篠塚選手、ありがとうございました。

【文責 広報委員会】

【篠塚大登さんプロフィール】

愛知県東海市出身▶戦型:左シェーク裏裏のオールラウンド攻撃型▶高校教師の父が卓球部の顧問になったことをきっかけに、5歳から近所の卓球クラブで卓球を始める。▶小学校1年生で名門・卓伸クラブに入り、全日本レベルの選手として活躍。▶16歳で日本の卓球リーグ「T.T.彩たま」に所属。プロ選手になる。▶愛知工業大学附属中学校、愛知工業大学名電高校を卒業し、現在は愛知工業大学経営学部 経営学科スポーツマネジメント専攻3年



愛工大の練習場で仲間たちとの一枚

主な戦績	
2013年	全日本卓球選手権大会カブの部 男子シングルス 2位
2015年	全日本卓球選手権大会ホブスの部 男子シングルス 3位
2017年	JOCジュニアオリンピック全日本選手権大会 カデットの部男子ダブルス 優勝 14歳以下シングルス 優勝
2019年	インターハイ学校対抗優勝、男子シングルス2位
2021年	天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権大会 ジュニアの部 男子シングルス 3位 世界ユース卓球選手権大会U-19混合ダブルス 優勝
2022年	全日本卓球選手権大会(団体の部)優勝
2023年	全日本卓球選手権大会 男子シングルス 2位 アジア卓球選手権大会 男子ダブルス ベスト8
2024年	天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権大会 混合ダブルス優勝、男子シングルス 3位 世界卓球選手権大会(団体の部) ベスト8 パリ2024オリンピック競技大会 団体4位
2025年	全日本卓球選手権大会 男子シングルス2位

パリ2024パラリンピック競技大会を終えて



パラリンピック競技大会に2大会連続出場は今井選手

対談

今井 大湧さん (平成29年普通科卒業)
立松 彰吾さん (平成20年機械科卒業)
名電高校教諭
バドミントン部顧問

【今井大湧さんプロフィール】

愛知県津島市出身 ダイハツ工業所属
パラバドミントン選手(SU5:上肢障がい、の種目)
主な戦績
2015年 日本選手権男子シングルス優勝
2017年 世界選手権男子シングルス銅メダル
アジアユース・パラシングルス優勝
2019年 世界選手権シングルスベスト8
2021年 東京2020パラリンピック競技大会シングルス5位
2022年 世界選手権シングルス3位
2024年 世界選手権シングルス3位、混合ダブルスベスト8
パリ2024パラリンピック競技大会シングルス5位、混合ダブルス7位

広報委員会(以下、広報)...
東京大会に続き、2回目の出場おめでとうございます。今井選手(以下、今井)...

るか分からない不安もありました。今回は、ミックスダブルス、個人とで出場でしたが、ダブルスは高校時代にプレーしたぐらいで、本格的に取り組んだ期間が短く、選ばれたのは本当に運が良かったと思います。
広報...立松先生は、現地観戦のため自費でフランスへ行かれたそうですね。
立松先生(以下、立松)...はい。休暇を取ってパリへ行き、予選からずっと試合を観戦しました。
今井...名電に挨拶へ行つた際に、先生から「応援にいく」とお声をかけていただいたのですが、冗談だと思っていました(笑)。現地で観客席におられた時には、驚きましたがとても心強かったです。
広報...東京大会とパリ大会では違いがありましたか。
今井...大きく違いました。東京大会は、コロナ禍で無観客での試合でしたが、パリ大会では、現地での声援でシャトルを打つ音が聞こえない時があるほど、観客も盛り上がっていました。



(Photo by Alex Slitz/Getty Images)
大会2日目、グループB男子シングルスでプレーする今井選手

広報...その影響はあったのでしょうか。
今井...僕は人に見られるほうが好きなので、むしろ、楽しんでプレーできました。東京の時は、固くなってしまったので、今回の方が良かったと思います。
立松...それは、見ていて分かりました。東京大会の試合は動画で見ている、思う通りに動いていないと感じました。パリではどの試合も良かったので、やってきたことが出せているなど思っていていました。
広報...実力が拮抗している試合が多かったですね。
今井...僕は世界ランキング6位でしたが、2位の選手と3位の選手、4位の選手との戦いでした。勝ち抜くのが難しかったです。
広報...試合は接戦でした。
今井...そうですね。本当に楽しんで、興奮しました。もっともっとプレーしたいという気持ちでした。次のロス大会でも出場して、メダルを目指したいですね。
広報...そのためには、日本、アジアでも上位の成績が必要です。
今井...はい。僕のカテゴリの世界トップ4は全てアジアの選手です。世界選手権ではメダルの実績がありますが、アジアでの成績はベスト8です。2年後の名古屋開催のアジアパラ競技会はロシアの前哨戦です。
立松...この大会には、部員を連れて見に行きたいと思っています。
広報...今井選手は高校時代から日本代表になる活躍だったのでしょうか。
立松...実は、パラリンピックに出場するイメージは全く無かったです。というのは、他の高校生と同じ健常者の大会に出て、全国を目指していました。
広報...いつパラに転向を？
今井...高校2年の終わりに選手権に出場して、優勝

しました。その後、国際大会へ出るようになりました。
立松...正直、彼がパラで成績を残せるかは、未知数でした。私自身もあまり分からない状態で、当時もう一人の顧問の日詰先生(現・教頭先生)が出場をすすめてくれたのが最初ですね。
今井...今考えると、名電で良かったと思うことが多いです。僕は、卒業後に日体大へ進みましたが、立松先生が日体大出身で、きっかけをいただきました。
立松...名電で生徒たちは目的を持って学んでいます。ですから考えて取り組んでいる生徒が、迷っている時にだけ声をかけます。私も名電出身で、部活動はバドミントンでした。当時の練習は彼らより厳しかったです(笑)。
広報...お二人とも今日はありがとうございました。
立松・今井...ありがとうございました。引き続き応援をよろしくお願いします。
【文責 広報委員会】



今井選手と恩師の立松先生

思い続ける限り、夢は終わらない



現在はシンガポール在住。会社の代表として活躍する柴田さん

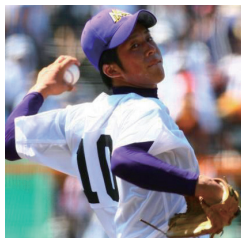
インタビュー

柴田 章吾さん
(平成20年 普通科スポーツコース卒業)

【柴田章吾さんプロフィール】

略歴：愛工大名電高一明治大-読売ジャイアンツ(選手-球団職員)-アクセンチュア-No border創業
明治大学文学部卒業。難病ベーチェット病初の元プロ野球選手、現起業家。日テレ系列の「24時間テレビ」や、「衝撃のアンノニ会ってみた」にて、難病を克服して甲子園に出場しプロ野球選手となり、外資系コンサル・アクセンチュアへの異例の転身について取り上げられた。現在は、No border株式会社を創業し、代表取締役を務める。一般社団法人海外野球振興協会NB.ACADEMY代表理事。

た。授業も受けられませんでした。



高3夏の甲子園のマウンドで

野球ができない病との闘い
私は、野球部の特待生として名電高校に入学しましたが、ベーチェット病という難病で、医師から運動をすることを禁止されています。高校1年生の時には

した。当時、一番苦しかったのは、野球部のみんなと一緒に同じ練習ができなかったことです。何度もくじけそうになりましたが、倉野監督はじめ、野球部のみんな、関係者のみなさまの支えで、病気と付き合いつつから野球を続けてきました。いつしか「一流のプロ野球選手になる」という目標は、仲間と一緒に「甲子園に出ること」に変わりました。最後の夏は、みんなであっという間に姿を想像し、チームの一人ひとりがレベルアップできれば、夢は叶えられると信じて練習に取り組みました。そんな高校生活でしたので、県大会の決勝で投げ、甲子園に出場できた時は、本当に嬉しかったです。その後、明治大学、読売巨人軍(育成)で野球を続け、引退後は巨人軍のアカデミーコーチを経験しました。

プロ野球から異例の転身

2016年、アクセンチュアへ転職しました。入社試験では、この会社で自分を鍛え、メジャーリーグ

の経営に携わられるようなキャリアを歩みたいと面接で話したら「その挑戦を応援する」と内定を貰いました。在籍した3年半は、約10社の業務改革・IT変革を経験し仕事に没頭する日々でした。その中で、野球がまだ浸透していないアジアで何かできないかと考えるようになり、フィリピンでの起業を意識するようになりました。

夢のアジア甲子園の実現へ

以前ホームステイで、野球少年に野球を教える代わりに英語を教える代わりにという経験がきっかけです。現地の子供たちに野球を教えるコミュニケーションが出来上がってきた時に、フィリピンの方々から「アカデミーを作らないか」という提案をいただき、起業を決定。2019年10月に、会社を設立しました。



異文化交流を深め、野球を通じて新たなコミュニティの形成が成果となりました

「『甲子園』という日本の伝統的な野球文化を輸出して、そのアジア版ができれば…」みんなが目指すゴールとなる

アジア甲子園を開催

2024年12月17日〜21日の5日間、インドネシア国内の州対抗戦として、8チームが参加、全16試合が行われました。歴史と伝統あるゲロラ・ブン・カルノ・スタジアムで行われた本大会は、ジャカルタ市民を中心に2千名以上が試

合を観戦。14歳から18歳までの選手が7イニング制で行われました。試合の間には、選手同士や指導者間での交流イベントや、現地の子供たちを対象に野球教室も開催、多くの笑顔と友情が生まれました。なお、大会最終日には、インドネシアU18代表チームと元甲子園球児日本代表チームが対戦するエキシビションマッチを開催。大会の注目を集める一戦となりました。また、選手、指導者、スポンサー企業、ボランティアアスタフなど大会関係者約6百名参加のアフターパーティーも開かれ、今後の野球振興活動など、交流の輪が広がりました。

今回の初開催では、30社以上のスポンサー企業や地域コミュニティの協力の他、特に、現地ボランティアアスタフの尽力が大会成功の鍵となりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。第2回大会は、今年の12月に開催予定です。応援の程よろしくお願いたします。

【文責 広報委員会】

同窓生の奮闘

地域を盛り上げたい！

兵藤 剣さん

(平成9年3月普通科卒業)



オーナーシェフとして池下の『kitchen KEN』を切り盛り

学生時代の思い出

高校時代はバドミントン部でした。実は中学の時も卓球を続けたかったのですが、レベルが高く断念しました。当時の部員は最大50人、最終的にはキャプテンもやりました。顧問の西浦先生は、生徒の自主性に任せる方で、自由にやらせてもらっていました。そのかわり戦績は残せませんでした(笑)。

「飲食店人」の道へ

高校卒業後、すぐに飲食の世界へ入りました。親が共働きで、子供の頃から自分で料理を作ることが当たり前でしたので、飲食店は自然な流れでしたね。個人店で修業したり、多店舗展開を学ぶため、10年間飲食

店を共同経営したりしました。その中で「料理がおいしく、お客様から愛される『飲食店人』がいる

お店」をつくりたいと4年前に独立。池下に店舗をオープンしました。



地域のお祭りを復活

昨年、池下祭り実行委員会を立ち上げ、11月に開催しました。池下祭りは、過去の開催があったのですが、中心になった方が亡くなり、途絶えていたんです。今回、そのお祭りを数年ぶりに復活させようと、商店街を中心に地域のお店に声をかけました。名電高校には最初に足を運び、吹奏楽部とバレーボール部のみなさんにご協力いただきました。今年10月に蝮ヶ池八幡宮で第2回を開催予定です。一緒に地域を盛り上げたいですね。



高橋先生への感謝

西村 勇夫さん

(昭和48年機械科卒業)



滋賀県ウエイトリフティング協会の相談役を務める

私は入学当初は目的意識もない毎日を過ごしていました。この生活を改めようとは思ってはいなかったものの、部活動はトップレベルの選手が多く、素人はとてもついていけない部活ばかりです。

1年生の終わり頃、勇気を出してウエイトリフティング部の門を叩きました。そこで出会ったのが、顧問の高橋力先生でした。先生は、当時日本トップレベルの現役選手で、雲の上のような存在でした。私は途中入部で、しかも全く素質のないような生徒です。

そんな私に対し本当に真剣に指導してくださいました。たまに記録が少しかけ伸びると、満面の笑みで褒める先生の指導は「自尊心」の低い生徒にとって、大きな励みになりました。先生のおかげで、2年時

に四国インターハイへの出場が奇跡的に決定。結果は失格で、最下位でした。帰りの船の中で先生は「おまえは素質がないから、考えて人の三倍練習をやれ」との言葉が、私の人生の指針になりました。

その後は、福島インターハイ、鹿児島国体で優勝、大学時代にはインカレと全日本学生個人選手権で優勝など、飛躍的な成長を遂げることができました。

私にとって名電は人生最良の選択であつたと今でも確信しています。最後に、高橋先生に感謝し、母校のさらなる飛躍を心から祈っています。

水泳人生は続く

朝日 菜月さん

(平成31年3月普通科卒業)



日本選手権で8位入賞 選手兼コーチとして活躍

高校時代は、3年間水泳部に所属していました。今は大学の職員をしながら、選手を続けていますが、実は高校で水泳はやめようと思

っていました(笑)。

私は、高校3年の時に、インターハイに出場できるベストタイムを持つていましたが、大会で結果が出ず、悔しくて大学でも水泳を続ける決心をしました。

大学進学後は、タイムを出すため、色々なトレーニングに挑戦。トップアスリートのコーチに指導を受けたり、様々な方に助けられ多くの学びを得ました。

その結果、日本選手権やジャパンオープンに出場、楽しさと共に、物の見方や考え方等、自身の世界が変わったと思います。

現在は、社会人2年目で学生への指導も増えてきました。コーチング等に悩む毎日で大変さを実感しています。一番嬉しかったことは、4年生で最後の夏だった学生が今年、ようやく標準記録タイムをクリアしたこと。親御さんから、「菜月さんの練習メニューがよくて、タイムが切れました」と言われ、とても嬉しかったですね。

今後「挑戦と学び」を忘れず、水泳の指導に励みたいと思います。

【文責 広報委員会】

クラブ活動報告

卓球部

インターハイ卓球 男子学校対抗8連覇

卓球部が、第93回全国高等学校卓球選手権大会（8月3～8日・長崎県開催）で、8大会連続・通算22回目の男子学校対抗制覇を達成しました。8連覇は、史上2例目（前例は2005～2012年の青森山田高校）の快挙。個人種目でもダブルスで優勝しました。

男子学校対抗では、準決勝の静岡学園（静岡）戦をストレートで勝ち上がり、決勝の舞台へ7年ぶりに進んだ遊学館（石川）と対決。1番の持田陽向（1年）が相手エースに敗れたものの、2番の主将・坂井雄飛（3年）が競り勝ち、



8連覇を達成した卓球部

ゲームカウントを1対1としました。3番ダブルスは、前日の個人戦ダブルスで優勝した坂井／面田知己（2年）が、1ゲーム目を

落としてから3ゲーム連取で勝ち、優勝に王手をかけました。4・5番は、どちらも大接戦。4番の菅沼翔太（3年）は惜敗したものの、5番の面田が強気のプレーを貫いて3対1で勝利し、優勝を決めました。

激戦を制した本校は、史上初となる9連覇を目指しさらなる精進を続けます。

メカニカルアーツ部

8月25日に富山県で開催された「WRO 2024 JAPAN決勝大会」で堀田壮真（2年）、猪俣健悟（2年）の「meiden 2年」チームが第3位となりました。そして、日本代表として出場した世界大会（11月28～30日にトルコ共和国で開催）では、シニア部門で世界3位という成績を収めました。

顧問の大澤和貴教諭は「昨年のパナマ世界大会7位に引き続き素晴らしい結果を残してくれました。表彰台での彼らが輝いて見

えました。この結果に満足せず努力・研鑽してほしい。来年度は大きなルール変更があるが、彼らの活躍を信じています」と讃えました。



世界3位の堀田（左）・猪俣（右）

フェンシング部

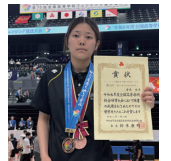
7月23～27日に佐賀県佐賀市で開催のインターハイ男子学校対抗戦で春の選抜に続く2冠を目指しましたが、3位という結果になりました。



3位入賞の団体戦チーム

学校対抗戦は総当たり戦で、先に5勝すると勝利。メンバーはキャプテン林川琉偉（3年）と長谷川力玖（3年）、西村健也（2年）、田中遼大（1年）の4名で戦いました。1回戦シードで慶應湘南藤沢（神奈川県）、北陸（福井）、城ノ内（徳島）と危なげなく勝利し、準決勝は昨年決勝を戦った鹿児島南高校と対戦。最終戦は4勝5敗で敗れ3位となりました。個人

戦では、女子サーブルで金高生幸（3年）が3位となりました。富田弘樹監督は「インターハイ2連覇、春夏2冠を目指し頑張った選手達を誇らしく思う」と語りました。



サーブル3位の金高生幸

サッカー部

第103回全国高校サッカー選手権愛知県大会で優勝し、全国高校サッカー選手権に出場しました。実力拮抗の愛知県大会の参加は177チーム。3回戦の刈谷高校戦はPK戦で勝利し、準々決勝の日本福祉大学高校では延長戦ラストプレーで得点し勝利。接戦を制した勢いで、優勝まで駆け上がり、大会を通じて選手達は大きく成長を遂げてくれました。

12月28日～1月13日に東京で開催された全国大会では、明誠高校との初戦を6対3で勝利し、本校サッカー部として全国



全国大会初勝利のサッカー部イレブン

ボウリング部

大会初勝利を掴むことができました。2回戦では、強豪の前橋育英高校と対戦し、PK戦の末に敗れました。前橋育英高校はその後、優勝を果たしました。優勝チームに対して臆せず戦えたことは、名電サッカー部の未来に繋がると信じています。

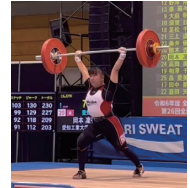


全国大会出場のボウリング部

12月21日・22日に京都で開催された、文部科学大臣杯第31回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会において、参加校61校中、岡田有翔（2年）・橋本篤輝（1年）ペアは予選4位、駒木亮太（3年）・清水武（1年）ペアは予選8位の成績でした。決勝進出8校のうち規定により決勝は1校1ペアのため、岡田・橋本ペアが決勝へ進出。決勝で1勝し、10年振りに全国第4位に入賞しました。

また清水は、スコア300のパーフェクトゲームを達成しました。

ウエイトリフティング部



活躍が期待される 岡本凜香

岡本凜香(3年)が昨年3月末に行われた全国高等学校選抜大会や全国大会など出場した大会では、6位以内に入ると好成绩を収めました。特に7月の全国高等学校女子選手権大会ではクリーン&ジャークが2位、11月の全日本女子選抜選手権大会ではクリーン&ジャークが3位の成績でした。

吹奏楽部

吹奏楽部は、9月にマレーシアのサラワク州から招待を受けて国際音楽祭に参加し、大きな喝采を浴びました。また、今年度も全日本吹奏楽コンクール(10月20日・宇都宮市文化会館)、全日本マーチングコンテスト(11月17日・大阪城ホール)に連続出場し銀賞を受賞しました。

1月5日には、第60定期演奏会(名古屋国際会議場センチュリーホール)を開催。多くのお客様にご来場いただきました。



聴衆を魅了した定期演奏会

ダンス部

第17回日本高校ダンス部選手権全国大会に出場し、全国準決勝大会(8月15・16日パシフィコ横浜)でスモールクラス(12名)8位入賞、ビッグクラス(33名)は26位の成績を収めました。スモールクラスは、さらに全国決勝大会(9月1日・日本工学院アリーナ)に出場、6位に入賞しました。



全国大会6位 スモールクラスの部員たち

チアリーディング部

6月30日ポートメッセなごやで開催された中部チアリーディング選手権大会

において、自由演技競技部門で10連覇し、総合優勝を達成。8月29日から9月1日まで東京代々木第一体育館で行われたJAPANCUP2024日本チアリーディング選手権大会では、チーム過去最高得点となる319.5点を獲得して、6位入賞を果たしました。



賞状を手にする部員たち

囲碁高校生チャンピオン

7月22〜24日まで東京の日本棋院で開催された全国高校囲碁選手権大会個人戦で、羽根和哉(科学技術科3年)が優勝。3月に大阪で開催の全国選抜大会でも優勝し、高校生の主要3タイトルのうち2冠を獲得しました。

将来はロボット開発が夢という彼は、囲碁の魅力について「日々研究され、新しい手が次々に出てくるので



トロフィーを手にする 羽根和哉

すね。どれも正しいか研究を続けることが楽しい」と語ってくれました。

野球部

日米通算4367安打を記録したイチロー氏(平成4年卒業、現マリナーズ会長付特別補佐兼インストラクター)が11月18日、野球部に臨時指導で来校され、「名電のプライドを持って、しっかりとプレーを」と生徒達に言葉を残してくださいました。ありがとうございました。



(Photo by Steph Chambers/Getty Images) 日本人初の米国野球殿堂入り 背番号51はマリナーズの永久欠番と発表

【文責 広報委員会】

同窓会からお祝い

令和6年度、高校のクラブ活動などに激励とお祝いをしました。

卓球部、フェンシング部、サッカー部、ボウリング部、ウエイトリフティング部、スキー部、相撲部、チアリーディング部、ダンス部、吹奏楽部、メカニカルーツ部、羽根和哉(3年・科学技術科)、篠塚大登選手、今井大湧選手

令和6年度役員総会

6月7日に名古屋市内のホテルにて令和6年度の同窓会役員総会が開催されました。令和5年度の報告と承認の後、令和6年度の事業計画(案)と、収支予算(案)について審議、承認され閉会しました。

令和6年度卒業クラス幹事のみなさん

※印は代表幹事

- 【科学技術科】
 - A組 竹中真斗・※中島大輔
 - B組 立松篤樹・光山太陽
 - C組 熊田摂己・森下幹太
- 【情報科学科】
 - A組 池口詩楽・横井寿哉

【普通科】

- A組 丹羽基貴・藤井由奈
- B組 吉田琴泉・沖田 栞
- C組 土屋セナ・目黒全射
- D組 斉藤騎士・丹羽優奈
- E組 中谷有喜・山口昊大
- F組 勝間 昊・藤原秀翔
- G組 石川聖夏・宮下朋己
- H組 秋江一瑳・稲葉 陸
- I組 鈴木彩乃・舟橋真之介
- J組 祖父江孝太郎・森 梨稀
- K組 幸繁龍ノ介・松並秀真
- L組 仁科匡貴・鈴木良青
- M組 佐々木香歩・品村佳希

校長より学校報告



荻原哲哉校長

同窓会の皆様には日ごろから格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

令和6年度の話題としてまず、本校が文科省が指定する「DXハイスクール」に選ばれたことをお知らせします。この事業で深層学習のプログラムを学ぶための環境整備を進め、社会の急務となっている理工系・情報系人材の育成に貢献していきたいと考えています。

この一年も多くの部活動が全国の舞台で活躍しました。中でも卓球部は平成の青森山田高校の記録に並ぶ総体8連覇の偉業を達成しました。また、サッカー部が5年ぶりに県大会を制し、全国選手権大会出場を果たしました。学校全体が盛り上がり「熱い」年の瀬となりました。同窓生の皆様には大きなご声援をあり

がとうございました。

部活動の活躍は国内にとどまりません。9月には吹奏楽部がマレーシアのサラワク州から招待を受け、音楽祭への出演と、現地バンドとの合同演奏などの国際交流活動を行いました。また、11月には、メカニカルアーツ部のチームmeidenがトルコで開催されたワールドロボットオリンピック2024世界大会において第3位という快挙を成し遂げました。3年羽根君が高校囲碁3冠のうち2冠を獲得したのも大きな出来事でした。そして、11月にはイチローさんの母校訪問が実現しました。走・投・打の全力プレーを間近で見せた後、後輩部員の質問の一つひとつ丁寧に答えてくれました。野球部員達には夢のような感激の時間でした。

昨年9月に本校ホームページをリニューアルいたしました。同窓生の皆様には、最近の母校の様子をぜひご覧いただければと存じます。

本校ホームページ
<https://www.meiden.ed.jp/>

高校PTAから



富川 恵美子
高校PTA会長

共に成長する活動

同窓会会員の皆様には、ますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。令和6年度PTA会長を務めさせていただいております富川恵美子と申します。

今年度は、多くの行事がコロナ禍以前のように、活気のある行事として開催されました。

文化祭は2日間行われ、PTAは2日目に模擬店で肉巻きおにぎりと、猛暑を考慮し冷凍フルーツ2種を販売いたしました。ご好評頂き1時間程で完売することができました。

体育祭はドルフィンズアリーナにて全学年合同で行われ、生徒たちの活躍する様子や見応えあるブロック対抗リレーには感動いたしました。

PTA主催2年生対象の進路研究会では、最新入試と保護者のかかわり方について共有する機会となりました。

数多くの部活動が全国大会への切符を掴み取る中、サッカー部が5年ぶり2度目の全国大会出場を果たし、強豪前橋育英との2回戦では、最後まで諦めずに「明るく前向きに」戦う姿に勇気と希望をもらうことができました。

共に支え合う、共に学び合う、共に考える、共に悲しむ、共に喜び合う、いろいろな現状や感情を共有しあう仲間がいることで生徒と共に成長し続け、今後も多様性の時代を生きていく子供たちをサポートするPTA活動を行っていく所存でございます。

こうした様々な活動の折には、PTA役員の皆様をはじめ先生方にはご尽力をいただき、又同窓会の皆様におかれましては様々な形での力添えに感謝を申し上げますとともに、今後もお支援の程よろしくお願致します。

【情報提供のお願い】

同窓会だよりでは、活躍、奮闘する同窓生を紹介しています。自薦、他薦は問いませんので、皆様の情報提供をお待ちしております。

— お問い合わせ先 —

メール:dousoukai@meiden.ed.jp
電話:052-721-0311



昨年実施のポスター

「ザ・名電ショー」に協賛
12月15日に名古屋国際会議場センチュリーホールで開催の「ザ・名電ショー」に協賛し、同窓会の会員様先着250名様(自由席)を無料でご招待いたしました。今年度も12月に開催予定です。チケットのお申込は同窓会のHPで11月より受付予定です。